東京2020大会
神奈川県の取組概要

東京2020大会に向け、県では数多くの取組を実施した。
その概要を章ごとに紹介する

第1章 セーリング

セーリング競技が開催された湘南港。1964年の東京大会に続き、２度目のオリンピック開催となった。開催に当たっての大きな課題であった湘南港の艇の移動、漁業関係者との調整、選手や大会関係者、観客等の安全で円滑な輸送の実現に全力で取り組んだ。大会の１年延期により、艇の移動を２度行うなど、様々な困難を乗り越え、セーリング競技を無事に開催することができた。

第2章 事前キャンプ

県と県内市町村が協力体制を築き、「オール神奈川」で積極的に行った事前キャンプ誘致は、東京2020大会の７年前に最初の一歩を踏み出した。大会の開催が決定した翌年の2014年に誘致に向けた委員会を設置。県内の競技施設や宿泊施設など地域資源の取りまとめや世界に向けた情報発信、国内外の関係団体への誘致活動といった、これまで経験したことのない事業を推進し、約1,300人の海外選手団を県内に迎えた。

第3章 聖火リレー

県内を３日間かけて走行する予定だったオリンピック聖火リレー。県民の熱い思いを受け止め、大会の盛り上げにつながるルートの選定やランナーの選考などの準備を進めた。しかし、コロナ禍による公道走行の中止により、予定を大幅に変更しての実施となった。パラリンピック聖火フェスティバルは、県内全市町村と県の火を集め、「ともに生きる社会かながわの火」として東京へ送り出した。

第4章 パラリンピック

2015年１月に発表した「かながわパラスポーツ推進宣言」には、パラリンピックを盛り上げるという目的とともに、パラリンピアンから学び、「かながわパラスポーツ」を県民に実践してもらいたいという思いを込めた。この推進宣言を基に、パラスポーツフェスタやパラリンピアンの育成事業なども行った。バリアフリー化した県立スポーツセンターには、ポルトガルパラリンピックチーム約70人が事前キャンプに訪れた。

第5章 機運醸成

４つの競技が開催されることとなった本県では、「オール神奈川」で大会に臨むため、様々な機運醸成事業を推進した。1,000日前を皮切りに行った節目イベントやセーリングの海上体験会のほか、多くの県民が参加した「ラジオ体操」動画、「東京五輪音頭」動画の配信も行った。コロナ禍で制約がある中でも、工夫を凝らしたセーリング競技の盛り上げや街を彩るシティドレッシングも実施し、機運醸成を図った。

第6章 安全・安心な大会

安全・安心な大会運営に向け、新型コロナウイルス感染症への対策に万全を期した。県の提案により、組織委員会等と協議会を設置し、感染症対策の徹底に向けた議論を重ね、感染者が発生した場合に備え、本県の医療提供体制である「神奈川モデル」での受入体制を整えた。また、県と組織委員会等で情報連携体制を構築し、大会期間中におけるリアルタイムでの情報共有に努めた。

第7章 大会を終えて

東京2020大会で、たくさんの感動を与えてくれたアスリート。県にゆかりのある選手たちのめざましい活躍にも注目が集まった。そうした選手たちに感謝の思いを伝えるために「アスリート感謝会」を実施。コロナ禍のため、オンラインでの開催となったが、多くの県民が視聴する中、４人のメダリストが、大会時の貴重なエピソードを披露してくれた。県民からは、たくさんの「ARIGATO」の言葉が寄せられた。